

# SCAT



2024年12月13日

各 位

会社名：**SCAT株式会社**  
代表者：代表取締役 社長 長島 秀夫  
(コード：3974 東証スタンダード市場)  
問合せ先：取締役 執行役員 高橋 栄  
(TEL：03-6275-1130)

## 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応（進捗状況）に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2023年12月14日開催の取締役会において決議した資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた方針について、2024年10月期の現状を評価・分析いたしましたので、取り組みの進捗状況を下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 現状認識と評価

当社グループは、2024年10月期から2026年10月期までの中期経営計画に基づき、コア事業を中心とした成長戦略として既存事業の構造改革（成長と深化）と、新しいサービスと事業の創出を実践することで、事業の成長と安定した収益の確保に努めております。

2024年10月期は中期経営計画の初年度ということもあり、成長の基盤となる各種投資を実施しつつ株主還元の拡充と株価を意識した施策を実施してはいたしましたが、2024年8月に起きた株価大暴落をきっかけとした株価低迷に加え、主力事業における業界不況、及び大型キャンセルによる業績見通しの変更（下方修正）が影響し株価の回復に至りませんでした。

#### (1) 資本収益性

当社グループの株主資本コストは、CAPMで自社算定すると概ね4%～5%で推移しております。ROEは株主資本コストを上回る水準で推移してはいたしましたが、2024年10月期では業績の低下により株主資本コストと同水準に低下しました。2025年10月期に向けて事業実績の改善のための施策を実施し、ROEを7.0%まで回復を目指してまいります。

#### (2) 市場評価

当社のPBRは、1倍を下回る水準で推移しております。好業績時においても、株価は割安で推移していることから、その要因は、時価総額が小さく株式の流動性が低いこと、並びに当社の将来性に向けた成長性が投資家から十分に評価されていないことと認識しております。

※) 参考

|                | 2022.10期 | 2023.10期 | 2024.10期 |
|----------------|----------|----------|----------|
| 連結売上高 (百万円)    | 2,587    | 2,742    | 2,594    |
| 経常利益 (百万円)     | 223      | 230      | 156      |
| 当期純利益 (百万円)    | 100      | 157      | 100      |
| 純資産 (百万円)      | 2,177    | 1,844    | 1,946    |
| BPS (円)        | 555.60   | 668.18   | 686.19   |
| EPS (円)        | 24.30    | 52.79    | 35.87    |
| 自己資本比率 (%)     | 62.7     | 62.0     | 66.2     |
| ROE (%)        | 4.5      | 7.9      | 5.3      |
| 期末日株価 (円)      | 431      | 469      | 388      |
| PBR (倍)        | 0.78     | 0.70     | 0.57     |
| 8月-10月平均株価 (円) | 457.08   | 517.13   | 416.16   |
| PBR (倍)        | 0.82     | 0.77     | 0.61     |

注) BPS : 1株当たり純資産、EPS : 1株当たり純利益、ROE : 自己資本利益率、PBR : 株価純資産倍率

## 2. 改善に向けた方針、目標、及び取り組み

### (1) 方針及び目標

当社は、2023年12月14日に公表いたしました中期3ヵ年計画に基づき、資本収益性及び市場評価の改善に取り組み、企業価値の向上を目指してまいります。

### (2) 改善に向けた取り組み

#### ① 事業業績の回復

- ・システム販売 : 1年延期された受注の獲得。Windows10サポート終了に伴う買替対応

#### ② 成長戦略の実行 (成長と深化)

- ・営業リソースの拡充やDXを活用した効率化推進による収益力強化
- ・基幹システム刷新に伴う業務プロセス改善及びICT促進による最適化

#### ③ 成長投資 : 経営資源配分計画の実行

- ・財務効率の向上、非事業用資産の売却等を含む資産の効率化及び有効活用の推進
- ・総合的に勘案した資本政策の検討

#### ④ 人的資本

- ・人財活用を含む人的資本投資の強化

#### ⑤ IR充実

- ・情報開示の拡充により投資家とのギャップを解消し投資家の意見等を経営陣で共有
- ・英文開示の充実 (四半期短信、決算補足資料、その他開示資料)

#### ⑥ ESG経営 : 環境・社会への貢献、ガバナンス体制の適正維持

以上